

令和元年度 黒松小学校 校内研究のまとめ

研究成果と今後の課題

研究主題

自分の考えを持ち、共に学ぶ子供を育む (1年次)

1 ○目指す児童の姿

- 道徳的課題を自分自身の問題として捉え、自分の考えを持ち、表現することができる児童
- 多様な考えを認め、他者の考えを受け入れることができる児童

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】 考えを持たせるための指導法の工夫

・教材提示の工夫

- 黒板をシアターのように使用して読み聞かせることで、児童は物語の中に入り込んで聞き、集中して聞くことができた。(低)

・児童にとって切実感のある発問の工夫

- 登場人物の絵やお面を使用することによって、自分のことと置き換えて考えることで効果的が見られた。(低)
- 導入の工夫：主題ではなく、著作権に関わる導入をすることで児童にとって身近なものとなり、興味を感じる事ができた。(中)
- スモールステップを踏んで、中心発問へ段階的に迫ったことで授業のねらいに迫ることができた。(高)

●役割演技等がうまくいかない時の手立てが必要である。(低)

●授業構成、中心発問の吟味、授業構成の流れについては、中心発問までの補助発問も含めて、さらなる吟味が必要(中)

●ワークシート、道徳ノートの更なる活用をしていくためには、児童の実態に合わせた活用の仕方をしていくとよい(中)

●題材の内容を効率よく捉えさせる工夫が必要。そのために教材提示や発問を含めた授業構成を研究していかなければいけない。(高)

【視点2】 多様な考えに触れ、自分の考えを深めるための話合いの工夫

・学習形態・話合いの形態の工夫(ペア・グループ・一斉など)

- 心情円盤を使用することで、普段あまり自分の考えを積極的に伝えようとしない児童も自分の考えを表すことができた。(低)
- 心情円盤を使い自分の考えを表すことで、視覚的に友達のことを知ることができた。(低)
- 日常的に行っている交流活動の積み上げが、短時間での活動の確保につながった。(中)
- 机間指導(赤線、称揚)は、児童に自信を持たせ、交流活動の活発化へつながる。(中)
- 内容を精選したワークシートを活用することで、主題に迫ることができた。(高)

○形によらず意見交流は考えを深める上で重要だと確認できた。（高）

- 現段階ではグループでの話し合いよりも挙手や指名による発言を通して考えを共有する方法が合っていた。自分の考えを伝えるだけでも難しい部分があった。（低）
- 友達のことを聞いて、さらに深めるということがなかなか難しい。自分と同じまたは、違うということを知るだけでもこの段階ではよいのかもしれない。（低）
- 交流が十分でないペアには、話し合いのポイントを明確に示す必要がある。（中）
- 交流の時間を確保するために書かせる内容の更なる精選が必要。（高）

【視点3】その他

・ 道徳ノートの蓄積など

- 道徳ノートに気持ちを書くことに慣れてきた。後日、読み返すことで、振り返りの手立てにもなった。（低）
- 道徳ノートは、思考の過程や変化、気持ちの変化等が記録されるので、深まっていく様子も読み取ることができる。また、それらが蓄積されていくよさも感じられた（中）
- 道徳ノートを通年で使うことで、自分の考えの変容を見取ることができた。（高）

- 自分の考えを書くことができない児童が、板書や友達のことを書いたとき、自分の考えとの見極めが難しい部分があった。（低）
- 書くことが苦手だったり時間がかかったりする児童にとっては、発問がはじめから書いてあるワークシートのほうがよいときもある。（低）
- まだ字がうまく書けない児童への手立てとして、絵で表すこともしたが、どんなことを表しているのか説明することができずに伝わりにくいこともあった。（低）
- 交流する時間を多く取るために、教材を読み取る時間を減らしたため、内容の理解ができていない児童が見られた。（高）

3 目指す児童の姿に迫るために（今後に向けて）

- ・ 効果的な中心発問について（低）
- ・ 低学年におけるペア・グループ学習の効果的な取り入れ方（低）
- ・ ノート・ワークシートの効果的な活用の仕方（低）
- ・ 自分事として捉えるための工夫（低）
- ・ 自分の考えを持つだけでなく、多様な考えを知るための交流活動（中）
- ・ 4年：多様な考えを知ることにより、自分の考えをより深めるための交流活動（中）
- ・ 題材を自分事と捉えさせる教材選び、教材提示の工夫が必要。自分にとって必要感、切迫感、危機感を持たせることで考えに深まりを持たせたい。（高）
- ・ 揺さぶりの発問、切り返しの発問により一般論ではなく児童の本音を引き出していききたい。（高）
- ・ 題材について考える時間を短くし、話し合い・交流活動への時間を多く取る必要がある。そのためにできるだけ、要点を分かりやすく提示する。（高）

低学年部 研究成果と今後の課題

研究主題

自分の考えを持ち、共に学ぶ子供を育む (1年次)

1 ○目指す児童の姿

- 道徳的課題を自分自身の問題として捉え、自分の考えを持ち、表現することができる児童
- 多様な考えを認め、他者の考えを受け入れることができる児童

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】 考えを持たせるための指導法の工夫

・教材提示の工夫

- 黒板をシアターのように使用して読み聞かせることで、児童は物語の中に入り込んで聞き、集中して聞くことができた。

・児童にとって切実感のある発問の工夫

- 登場人物の絵やお面を使用することによって、自分のことと置き換えて考えることに効果的であった。

- 役割演技等がうまくいかないときの手立てが必要である。

【視点2】 多様な考えに触れ、自分の考えを深めるための話合いの工夫

・学習形態・話合いの形態の工夫 (ペア・グループ・一斉など)

- 心情円盤を使用することで、普段あまり自分の考えを積極的に伝えようとしない児童も自分の考えを表すことができた。

- 心情円盤で自分の考えを表すことで、視覚的に友達のことを知ることができた。

- 現段階ではグループでの話し合いよりも挙手や指名による発言を通して考えを共有する方法が合っていた。自分の考えを伝えるだけでも難しい部分があった。

- 友達の考えを聞いて、さらに深めるということがなかなか難しい。自分と同じ・違うということを知るだけでもこの段階ではよいのかもしれない。

【視点3】 その他

・道徳ノートの蓄積など

- 道徳ノートに気持ちを書くことに慣れてきた。後日、読み返すことで、振り返りの手立てにもなった。

- 自分の考えを書くことができない児童が板書や友達の考えを書いたとき、自分の考えとの見極めが難しい部分があった。

- 書くことが苦手だったり時間がかかったりする児童にとっては、発問がはじめから書いてあるワークシートのほうがよいときもある。
- まだ字がうまく書けない児童への手立てとして、絵で表すこともしたが、どんなことを表しているのか説明することができずに伝わりにくいこともあった。

3 目指す児童の姿に迫るために（今後に向けて）

- ①効果的な中心発問について
- ②低学年におけるペア・グループ学習の効果的な取り入れ方
- ③ノート・ワークシートの効果的な活用の仕方
- ④自分事として捉えるための工夫

中学年部 研究成果と今後の課題

研究主題

自分の考えを持ち、共に学ぶ子供を育む （1年次）

1 ○目指す児童の姿

- 道徳的課題を自分自身の問題として捉え、自分の考えを持ち、表現することができる児童
- 多様な考えを認め、他者の考えを受け入れることができる児童

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】考えを持たせるための指導法の工夫

- 導入の工夫：主題ではなく、著作権に関わる導入
児童にとって身近なもので、興味を感じやすいものだった。
- 授業構成、中心発問の吟味、授業構成の流れについて
：中心発問までの補助発問も含めて、さらなる吟味が必要
- ワークシート、道徳ノートのさらなる活用
：児童の実態に合わせた活用の仕方
- ☆情報モラル「著作権」を扱う教材であること
：今後に向けて、他の教材とも異なる流れを考えながら授業づくりをする必要がある

【視点2】 多様な考えに触れ、自分の考えを深めるための話し合いの工夫

- 日常的な交流活動の積み上げ：短時間での活動の確保につながった。
- 机間指導（赤線，称揚）：児童の自信を持たせ，交流活動の活発化へ
- 交流が十分でないペア：話し合いのポイントを明確に示す必要あり

【視点3】 その他

- 道徳ノート：思考の過程や変化，気持ちの変化等が記録され，深まりも読み取ることができ，またそれが蓄積されていくよさ

3 目指す児童の姿に迫るために（今後に向けて）

- ① 3年：自分の考えを持つだけでなく，多様な考えを知るための交流活動
- ② 4年：多様な考えを知ることにより，自分の考えをより深めるための交流活動

高学年部 研究成果と今後の課題

研究主題

自分の考えを持ち、共に学ぶ子供を育む （1年次）

1 ○目指す児童の姿

- 道徳的課題を自分自身の問題として捉え，自分の考えを持ち，表現することができる児童
- 多様な考えを認め，他者の考えを受け入れることができる児童

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】 考えを持たせるための指導法の工夫

- ・ 教材提示の工夫
- ・ 児童にとって切実感のある発問の工夫
 - スモールステップを踏んで，中心発問へ段階的に迫ったことで授業のねらいに迫ることができた。
 - 題材の内容を効率よく捉えさせる工夫が必要。そのために教材提示や発問を含めた授業構成を研究していかなければいけない。

【視点2】 多様な考えに触れ、自分の考えを深めるための話し合いの工夫

- ・ 学習形態・話し合いの形態の工夫（ペア・グループ・一斉など）
- ・ 友達の意見と自分の意見の交流に活用できるワークシートの工夫
 - 内容を精選したワークシートを活用することで，主題に迫ることができた。
 - 形によらず意見交流は考えを深める上で重要だと確認できた。
 - 交流の時間を確保するために書かせる内容のさらなる精選が必要。

【視点3】 その他

- ・ (例) 道徳ノートの蓄積など
 - 道徳ノートを通年で使うことで，自分の考えの変容を見取ることができた。

- 交流する時間を多く取るために、教材を読み取る時間を減らしたため、内容の理解ができていない児童が見られた。

3 目指す児童の姿に迫るために（今後に向けて）

- ① 題材を自分事と捉えさせる教材選び、教材提示の工夫が必要。自分にとって必要感、切迫感、危機感を持たせることで考えに深まりを持たせたい。
- ② 揺さぶりの発問、切り返しの発問により一般論ではなく児童の本音を引き出していききたい。
- ③ 題材について考える時間を短くし、話し合い・交流活動への時間を多く取る必要がある。そのためにできるだけ、要点を分かりやすく提示する。

ことばの教室 研究成果と今後の課題

自分の考えを持ち、共に学ぶ子供を育む（1年次）

1 ○ 目指す児童の姿

- 道徳的課題を自分自身の問題として捉え、自分の考えを持ち、表現することができる児童
- 多様な考えを認め、他者の考えを受け入れることができる児童

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】 考えを持たせるための指導法の工夫

・教材の工夫・生活体験と結び付いた教材

- 状況絵を見せて文脈を捉えさせたり、自分の生活体験を振り返る機会を設けたりした。
- 自分自身で音読の課題を持たせた。→自覚的に取り組んでいた。
ひとこと感想を書くなど振り返りの時間の設定→自己評価をすることで自信に。
- 本児自身が決めないと進まないようなやりとり（音読の仕方の話し合い等）は自分の考えを持たせたり、自発的な発言が増えたりなど効果があった。
- 耳で聞くことと目で見ると同時にすることは難しく、どちらか一方を選んで提示することになった。
- 担当者が児童にアドバイスをするのみでなく、児童の感想を聞きながら進めるといった一方向的ではない関係性作りや場の設定をする。

【視点2】 多様な考えに触れ、自分の考えを深めるための話し合いの工夫

・他者の意見を聞かせて、考えを深めさせる。

- 吹き出しを用いてテーマごとに提示→多様な考えがあることを知らせた。
- 他の通級児童の考えを紹介した。
- 取り上げる題材を豊富にし、他の児童の考えにも時々触れることができるような機会を設定する。

【視点3】 その他＜学びの蓄積＞

・発問の吟味

- 「どんなことを思って」「どんな自分になりたかったか」「もし自分だったら」と様々な発問によって自分の答えを探りながら学んでいった。
- 発問の数を絞って一つの問いに対してじっくり考える時間を与えてみた方が良かったか

もしれない。

- 担当者の発音の意図的な間違いを児童に指摘させるような練習も取り入れたい。

3 目指す児童の姿に迫るために（今後に向けて）

- ①「聞くこと」・「見ること」それぞれを生かし、バランスをとった指導のあり方
- ②吃音児の緊張をほぐし、授業に集中させることができる授業公開のあり方
- ③言葉が重い児童に対して発表を促す指導の工夫

特別支援部 研究成果と今後の課題

自分の考えを持ち、共に学ぶ子供を育む（1年次）

1 ○目指す児童の姿

○道徳的課題を自分自身の問題として捉え、自分の考えを持ち、表現することができる児童

○多様な考えを認め、他者の考えを受け入れることができる児童

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】 考えを持たせるための指導法の工夫

・教材提示の工夫

・児童にとって切実感のある発問の工夫

- イメージしやすい教材を使い、児童が想起しやすい場面設定だったので児童が考えを持ちやすかった。
- ロールプレイで望ましい言葉のやりとりが楽しんで学べた。
- パネルシアターや構造的な板書により内容を視覚的に捉えることができ、児童の考えを引き出すことができた。
- 児童の実態が多様であるため、教材の吟味が必要である。

【視点2】 多様な考えに触れ、自分の考えを深めるための話合いの工夫

・学習形態・話合いの形態の工夫（ペア・グループ・一斉など）

・友達の意見と自分の意見の交流に活用できるワークシートの工夫

- 発表の順番を意図的に指名したことにより、友達のよい見本を自分の発表で取り入れることができた。
- 選択肢を絞る（○×や表情カード）ことで児童が自信を持って活動できた。
- 相手の思いを理解しながらロールプレイをしている児童もいた。
- 具体的な場面を振り返らせることによりイメージしやすく、児童が自分のこととして考えることができた。
- 児童数が少ないので、より多様な考えに触れる手立てを考える。

【視点3】 その他

・（例）道徳ノートの蓄積など

- 「触感を感じる」「パネルシアターを見る」「言葉を分類する」「体を動かしながらロールプレイをする」の4つに学習活動を分けることにより、児童の集中力ができるだけ途切れないうえに進めることができた。
- 日常でも生かせるように「フワフワ言葉スタンプカード」を取り入れたことによって

相手を意識して言葉を掛ける児童が増えた。

3 目指す児童の姿に迫るために（今後に向けて）

- ① 児童がイメージしやすい教材や場面設定をする。
- ② ロールプレイで道徳的実践意欲を養う。
- ③ 意図的指名や選択肢を絞ることにより、自信を持って発表できるようにする。

少人数指導部 研究成果と今後の課題

研究主題

自分の考えを持ち、共に学ぶ子供を育む （1年次）

1 ○目指す児童の姿

- 学習内容に興味を持ち、自分の考えを持つことができる児童
- 友達の意見を聞いて、考えを深め広げることができる児童

2 授業づくりの視点について 成果○ 課題●

【視点1】 **考えを持たせるための指導法の工夫**

- ・導入で既習事項の確認と、本時の内容の予告をし、見通しを持たせる。
- ・課題を自力解決するための手立てとして、図や公式などを掲示する。
 - 導入で既習事項を確認し掲示することや、実験を演示し予想するときの手がかりとすることで、本時の課題の見通しを持たせることができた。
 - 本時の課題を確実にとらえさせるために、自力解決のヒントの与え方をさらに工夫改善する。

【視点2】 **多様な考えに触れ、自分の考えを深めるための話合いの工夫**

- ・グループやペアでの話し合いを持ち、お互いの考えを聞き合い、自分の考えを深める。
- ・タブレットや実物投影機でノートを映したり、黒板やホワイトボードに考えを書いたりして発表の仕方を工夫する。
 - ペアやグループでの話し合いの場を設けることで、自分の考えを相手に伝えたり相手の考えを聞いたりして、考えを広げることができた。
 - ペア学習での組み合わせによっては、話し合いが上手に進められないペアもあったので、3人組にしたり、ペアを変えてみたりするなど工夫を試みたい。

【視点3】 その他

- iPadの活用により、児童のノートなどを簡単に見やすく提示することができた。
- 多様な考えに触れるだけでなく、その中からよりよい求め方を自分で判断する力をつけさせたい。

3 目指す児童の姿に迫るために（今後に向けて）

- 「本時の振り返り」をする時間を確保し，今後も「導入の工夫」「学習形態・伝え合いの工夫」を授業のスタイルとして，引き続き取り組んでいく。